

# **2019年度事業計画書**

**公益財団法人 北九州活性化協議会**

## 目次

（ 概況 ）	…………… P 1
（ 事業計画 ）	
<b>I 公益目的事業 1</b>	
北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与することを目的とした事業	
1 “もったいない”を未来に引き継ぐ事業 （もったいない総研事業）	…………… P 2
2 産業人材を育成する事業 （北九州地域産業人材育成フォーラム事業） ※別紙1 参照	…………… P 3
3 次世代を担う人材を育成する事業 （「北九州の企業人による小学校応援団」事業） ※別紙2 参照	…………… P 3
4 都市格（文化力・教育力）を向上する事業 （「1000人の夢寄金」事業）	…………… P 3
5 まちづくり推進事業	…………… P 6
<b>II 公益目的事業 2</b>	
北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業 ※別紙3 参照	…………… P 8
<b>III 法人運営事業</b>	…………… P 8
「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および財務基盤の強化を図る。	

## （概況）

2018年度の国内経済は、7～9月期の実質GDP成長率が、前期比0.6%減（年率換算2.5%減）と、2四半期ぶりのマイナス成長となり、人手不足の深刻化に加えて、台風や地震など自然災害も重なり個人消費や輸出、設備投資などが悪化した。

2019年度に向けては、少子高齢化の克服による持続的な成長経路の実現を図るため、人づくり革命の実現と拡大、生産性革命の実現と拡大、働き方改革の推進、新たな外国人材の受入れ等の政策の遂行がポイントとなっている。

北九州地域については、経済環境は緩やかに拡大基調を保っており、雇用情勢も、有効求人倍率は1.52倍、新規求人倍率2.09倍と引き続き改善した。また、若い世代の社会動態の状況についても、15-24歳で、減少から増加に転じるなど改善の兆しも見えてきた。

2019年度に向けては、地方創生が叫ばれる中、第4期北橋体制のもとで、洋上風力発電の拠点化やロボット産業の振興、少子高齢化対策等の中長期的な政策推進が期待されている。

KPECは、こうした北九州地域の環境条件を踏まえながら、人づくり革命や地方創成戦略等、国の大きな政策の流れをキャッチアップしながら、北九州市のポテンシャルを生かした事業の開発、運営を推進して行くこととする。

2019年度のKPEC事業は、産学連携による工学系技術人材の育成を目的とする「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」、北九州市の小学校教育の環境支援をする「北九州の企業人による小学校応援団事業」、市民の教育、文化活動の支援を通じて都市格の向上を図る「1000人の夢資金事業」の推進、ならびに2017年度に検討した寄付事業について事業化を推進する。「もったいない総研事業」については、「北九州紙えこっパー」の普及事業を拡充すると共に、「北九州市の文化財を守る会」との共同事業体による旧百三銀行ギャラリーの運営事業をベースに、近現代建築遺産の保存・継承及び活用についての研究を行う。

指定管理事業である北九州イノベーションギャラリー（KIGS）については、地域産業界との連携による特徴ある事業企画の開発を行うと共に、産業人材育成フォーラム事業や北九州マイスター事業、世界文化遺産関連施策等との連携を図りながら、北九州市の産業・技術継承とものづくり人材の育成という目的の実現に向けた事業の開発、運営を行う。

公益財団の経営については、2012年度より取り組んできた財務体質改善対策の成果を基盤として一層の経営効率の向上に向けた運営に努めると共に、創立30周年の節目に臨み、今後のKPECの運営の方向を見定めた事業の開発計画と事業の運営環境に適合した運営体制の構築を行い、北九州市における「新しい公共事業」の推進組織としての組織環境の構築を図っていく。

2019年度の事業計画は以下のとおりである。

## 事業計画

### I 公益目的事業1

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与することを目的とした事業

#### 1. “もったいない”を未来に引き継ぐ事業（もったいない総研事業）

KPECの創立10周年事業として創設した「もったいない総研」の運営理念を踏まえた地域活性化事業の企画、開発及び事業化を行う。

##### 1) 「北九州紙 えこっパー」の普及のための企画・開発の実施

###### (1) 『北九州紙 えこっパー』の普及強化の実施

北九州市が提唱する「SDG s 未来都市」政策と呼応して、昨年度、「第1回環境首都北九州SDG s アワードESD表彰」で特別賞を受賞した『北九州紙 えこっパー』の社会的意義を再確認し、「えこっパー」+「ていたん」の認知度の向上を図ると共に地域への普及事業を行う。

###### (2) 「北九州紙 えこっパー」による環境教育の実施

全国牛乳容器環境協議会や北九州の企業人による小学校応援団事業等と連携して、牛乳パックリサイクル製品である「北九州紙 えこっパー」の企画意図と製作過程を環境教育教材にした出前授業を継続実施する。

##### 2) “もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業の開発

###### (1) 北九州地域の近現代建築物等の活用に関する研究の実施

2018年度にKIGS調査研究事業として実施した「北九州地域の近現代建築物の活用に関する調査・研究」の結果を踏まえ、北九州地域の近現代建築物の活用について、具体的な提案に向けた研究を行う。

###### (2) 旧百三十銀行ギャラリーの指定管理事業の実施及びファシリティマネジメントの研究実施

「北九州市の文化財を守る会」と協働で実施する旧百三十銀行ギャラリーの管理運営事業（5年間）を円滑に実施すると共に、本事業を通じて、ファシリティマネジメントの在り方とノウハウの研究を行う。

## 2. 産業人材を育成する事業

地元理工系大学・高専等と中堅・中小企業との協働による産業人材育成の地域システムの構築と、これを活用した地域企業の経営力（人材力）強化と雇用環境の改善を図るため、「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、青少年から社会人に至る産業人材育成の地域システム創りとその持続的発展の仕組み創りを進める。また、北九州市と協働で、北九州市における技能伝承活動に関する業務を実施する。

※事業計画の具体的内容は、  
「2019年度北九州地域産業人材育成フォーラム 事業計画書」  
（別紙1）の通り

## 3. 次世代を担う人材を育成する事業（北九州の企業人による小学校応援団事業）

北九州の将来を担う子どもたちの健全育成を目指し、北九州市内の企業・経済団体等が連携して、市内小学校(129校)の児童、教員および保護者を対象に、学習支援（出前授業、見学受け入れ）、教職員・保護者の研修支援（講師派遣、見学受け入れ）、保護者のPTA活動支援などの教育支援に取り組む。

※事業計画の具体的内容は、  
「2019年度北九州の企業人による小学校応援団 事業計画書」  
（別紙2）の通り

## 4. 都市格（文化力・教育力）を向上する事業（1000人の夢寄金事業）

教育と文化を、都市格（都市の品格）向上の重要な基本要素と考え、北九州市の教育力・文化力を高め、真に魅力あるまちづくりを進めて行くために、市民の寄付を募り、教育や文化的活動を行う市民活動に対して活動費用を助成する「1000人の夢寄金」（以下、夢寄金）事業を推進する。

### 1) 「1000人の夢寄金」募金事業

事業推進の基盤として、1000人の夢寄金寄付者の拡大を図るために、新たに募金事業の組織化を図り、寄付金募集の方法と仕組みの検討を行う。

#### （1）寄付募集体制の確立

##### ① 基本寄付(個人会員1口3000円、企業会員1口10000円)

##### 募集体制の再構築

夢寄金事業の運営基盤となる基本寄付金の寄付者の拡大を図るために、昨年度は1口=1万円の企業会員募集を開始した。今年度は個人基本寄付（個人会員1口

=3000円)の拡充を図るため、新たなメンバーを組織し新規会員の獲得に向けた活動を実施する。

## ② 寄付金受け入れ方法の検討

KPECの寄付金事業と連携した多様な寄付形態(遺贈、香典返し等)に対応できる受け入れ制度の研究と受け入れ態勢の整備を図る。

## ③ 寄付金受け入れのための環境整備の実施

### i) 預金口座振替による寄付金の受け入れの拡充実施。

寄付者の利便性向上策として実施した、口座引落としによる寄付金口座振替の一層の推進と拡充を図る。

### ii) Web機能を活用した寄付金受け入れ機能の拡充

ホームページの拡充、Facebookの活用、メーリングリストの使用頻度UP等を行い、「1000人の夢寄金」のメディアへの露出度UPおよび寄付者の利便性向上対策を推進する。

### iii) 寄付者の定着化対策の実施

1000人の夢寄金の趣旨を踏まえて、寄付者に対する礼状の定期発送等の寄付の定着対策の実施と、その方法等についての研究を行う。

## (2) 寄付金募集のためのプロジェクト寄付事業の企画・運営

### ① 1000人の夢寄金チャリティーゴルフコンペ企画・開催

2014年度より実施している「1000人の夢寄金チャリティーゴルフコンペ」を継続開催する。

昨年度に引き続き、自前の実行委員会による開催を企画する。参加メンバーの基盤見直しおよび拡大により、新たなメンバー層の取り込みを図る。

(参加者目標 :100人・寄付金目標 : 300千円)

### ② 1000人の夢寄金チャリティーバザーの企画・開催

一昨年に引き続き、チャリティーバザー“クラフトチクチク de マルシェ”を継続開催する。

(寄付金目標 : 300千円)

### ③ ボランティアグループ『シマウマ組』との連携強化

“クラフトチクチク”の企画・運営より誕生した、「縞縞のシマウマ」と「時々ヨコシマなカバ」のぬいぐるみを制作するボランティアグループ『シマウマ組』との連携強化に向けた取り組みを行う。2019年度には年間150頭の生産体制を確立しており、当面体制維持に努める。

## 2) 「1000人の夢寄金」助成事業

「1000人の夢寄金」の趣旨を踏まえて、助成先の募集及び選定方法を研究し、文化と教育分野で活躍する将来性のある団体及び個人に対する助成事業の拡充を図る。

### (1) 助成事業の募集

北九州市の都市格を高めるために必要と思われる高質な将来性のある活動を行う団体及び個人の応募を得て助成事業を行う。

**① 助成事業の応募促進対策の実施**

北九州市の文化、教育関係分野や北九州市内の各種文化振興団体等との連携を図り、1000人の夢寄金の趣旨を周知すると共に、助成対象事業の発掘を促進する。

**② 助成事業の実施状況及び助成効果の確認の実施**

対象事業の終了または事業年度終了時に事業完了報告書の提出を義務付け、実施状況及び効果の確認を行う。

また、各対象事業実施時には担当者が極力現場に出向き実際に実施状況を確認、ホームページ・Facebookなどで広報に努める。

**③ 助成先事業の紹介**

ホームページ、Facebookで助成先事業を紹介し、1000人の夢寄金事業の認知度向上を図ると共に、助成先の新規開拓に繋げる。

**(2) 助成先の選定**

**① 「1000人の夢寄金・審査委員会」の運営**

公平、公正、公明性ある助成先の選定を行うため、審査項目の見直しや審査委員会運営方法の見直しなど実施する。

**② Web投票の実施**

助成審査の見える化と事前の公開投票による一般的な評価を確認し、審査委員会での参考資料とするためWeb投票を継続実施予定。

**3) 広報・プロモーション事業の実施**

「1000人の夢寄金」の周知を図り、寄付金の拡充と事業運営への志ある市民参加を促進すると共に、助成対象関係者の認知度向上のための広報等を実施する。

**(1) ホームページ及びFacebookの運営**

ホームページおよびFacebook等により、寄付者情報、助成先情報、その他活動情報等をタイムリーに発信すると共に、メーリングリストによる事務の効率化を同時に図る。

**(2) 「1000人の夢寄金」事業報告書の作成**

前年度事業報告書を作成（6月）し、寄付者に対する事業実施状況の報告と助成事業説明資料として助成先の活動の周知を図ると共に、新たな寄付者、助成先の開拓のツールとして活用する。（年1回）

**(3) ポスター、パンフレット等の見直し**

1000人の夢寄金事業発足から7年が経過し、逐次修正を行ってきたが、現状に適合しない部分も出てきたため大幅な見直しとリニューアルを行い、今後の寄付金増収のツールとして活用していく。

## 5. まちづくり推進事業

北九州地域の活性化のための各種事業の企画、開発及び運営に必要な研究・調査を行うと共に、事業の運営基盤となる産学官民の連携軸の構築等のまちづくり推進事業を実施する。

### 1) まちの活性化推進事業

#### (1) 新規事業の企画開発のための調査・研究の実施

創立30周年を機に、KPECの新しいまちづくり事業の方向性と企画を創設するため、北九州市の各分野の代表者にインタビュー調査を行い、中期的な新規事業の事業化のための基本計画を編成する。

<事例>

- ・創立10周年事業企画：もったいない総研事業
- ・創立20周年事業企画：産業人材育成フォーラム事業、  
小学校応援団事業、1000人の夢寄金事業

#### (2) 地域づくりネットワークの構築

公益財団法人としての組織的環境を活用し、産学官連携による地域づくりの視点を踏まえた地域活性化事業を推進する。

##### ① 北九州地域経済団体連携フォーラムの運営

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム」(事務局KPEC)を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを行う。

##### i) 共同プロモーション事業の実施

各団体の保有する各種情報及び事業について、共同広報や参画支援等の事業運営にかかる協力、支援を行う。

##### ii) 世界に広がる北九州の明日を考える講演会の企画、開催

北九州の都市づくりをテーマに、経済団体連携フォーラムの共催事業として「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」を開催する。

今年度は、KPEC創立30周年記念講演会と連携した開催とする。

##### iii) ギラヴァンツ北九州支援の実施

「ミクニワールドスタジアム」をベースとした、ギラヴァンツ北九州による地域活性化を期待し、経済団体連携フォーラムとして出来る支援を実施する。

##### ② 地域づくりネットワーク福岡県協議会への参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」へ参画し、地域活性化施策の研究、調査及び研修を行うと共に、北九州市域の地域づくり団体との橋渡しを行う。

#### (3) まちづくり事業の支援、協働の実施

##### ① 北九州ミュージックプロムナードの支援

平成8年にKPECの提唱で始まった北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとし

て定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援する。

## ② 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビクターズ・インダストリー創出を目的とした「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参画し、行政と協働でにぎわいづくり事業の企画、実施を行う。

## 2) まちの活性化に関する情報発信事業

### (1) 情報受発信の強化

KPECの運営趣旨と活動及び地域活性化に関する各種情報を地域に伝えるための情報発信事業を推進する。

#### ① KPECニュースの発行

KPECの運営及び事業を、KPEC会員及び関連団体に広く広報するために、KPECニュースを発行する。

(発行回数：年1回(6月)・発行部数：1000部)

#### ② ホームページの運営

KPEC事業活動情報のタイムリーな発信事業運営の環境を周知するため、専用ホームページの充実、運営を行う。

#### ③ メール送信システムの整備

KPECの円滑な事業運営と会員企業等への情報提供のために、関連企業及び連携組織等のメーリングリストの整備による地域ネットワークを構築する。

## 3) 創立30周年記念事業

創設30周年(平成元年財団法人創設)を機に、KPECの設立目的と地域活性化に取り組んできた運営経緯を総括し、改めて北九州市の活性化におけるKPECの機能と役割を広く市民に問い、今後のKPEC運営の方向付けを行うために創設30周年記念事業を企画、実施する。

### (1) 30周年記念誌の発行

KPECの創設趣旨と30年間の活動実績をまとめ、これまでの北九州地域の活性化に関する事業・取組みを地域に伝えると共に、今後のKPECの運営に資するために「KPEC創設30周年記念誌」の編集、発行を行う。

(発行部数：2000部)

### (2) 30周年記念講演会の開催

北九州市の確かな未来の創造についての方向付けと、「新しい公共」によるまちづくりを進めるKPECの役割について考え、北九州市民および北九州地域の企業の経営者層の明日への活力に資することを目的としてKPEC創設30周年記念講演会を開催する。

本事業は「北九州地域経済団体連携フォーラム」と連携して実施する。

・開催時期(予定)：2019年11月

## II 公益目的事業2：北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

北九州地域の「人材」「技術」「産業遺産」の3つの資産を活用し、新たなイノベーションへとつながる（1）人材活用・育成、（2）産業技術の保存継承(技術の知と心の継承)、（3）技術革新(イノベーション)の機会の創出を行い、人・知を結集し、北九州の発展に必要な新産業を生み出すとともに、北九州イノベーションギャラリーを媒体とした技術教育を通し、世界に貢献できる人材の育成を目的とした北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

※事業計画の具体的な内容は、  
「2019年度北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業計画書」  
(別紙3)の通り

## III 法人運営事業

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および財務基盤の強化を図る

### 1. 事業運営・管理体制の強化

北九州市の活性化におけるKPECの機能と役割を踏まえて、地域活性化の連携軸としてのKPEC業務執行体制を構築すると共に、中長期的な視点を踏まえた運営体制の整備を行う。

#### 1) KPECの事業運営・管理体制の強化

##### (1) KPECの管理運営体制の改正、強化の実施

###### ① KPEC運営体制の刷新、強化

創立30周年を総括し、新しいKPECの運営の方向付けを行い、地域におけるKPECの位置づけの明確化と事業実践力の強化を図るためKPECの新しい運営体制を構築する。

###### ② KIGS運営体制の改変、整備

第3期最終年度となるKIGSについては、2020年度からの第4期指定管理受託を踏まえた環境づくりを行うと共に、地域産業界及び行政との連携強化を図る運営体制の整備を行う。

###### ③ KPEC事務局業務運営体制の改変、整備

事業の新設、既存事業の拡充等に対応した事務局運営体制の強化を、適宜図っていく。拡充にあたっては、企業の雇用延長制度等を活用した高年齢者雇用の活用や、KPECの組織的環境を踏まえた出向・派遣等の活用のための環境づくりを行う。

#### 2) 事業運営体制の整備促進

「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」「北九州の企業人による小学校応援団事業」等、事業の地域における位置づけが確立し、地域システム化が進んだ事業については、KPECの役

割と各事業における関係機関・組織等（ステークホルダー）の分掌を明確にして、事業の自立化に向けた環境づくりを行う。

## **2. KPECの経営基盤の強化**

指定管理事業を含むKPECの経営管理について、事業運営フレームの改廃、改善及びコスト削減を図ると共に、新しい収入財源の開拓・研究等を進め、中長期的な視点で、経営体質の改善・強化を進める。

### **1) KPECの中期経営計画の編成**

創設30周年の節目を踏まえて、新しい事業運営体制の構築を行うと共に、新しい公共の推進の連携軸となるべきKPECの在り方を再確認し、今後の事業運営の基本的指針となる中長期計画の編成を行う。

### **2) 経営基盤の強化に資する事業開発・開拓**

主要事業を活用した新規事業の開発及び外部資金の活用研究、また、新規指定管理等の受託事業の開発など、経営基盤の強化に資する事業開発・開拓について環境調査及び事業化を推進する。

### **3) 寄付金事業の事業化**

公益財団法人の組織的環境を活かしたKPEC寄付金事業の確立のための体制整備と事業拡充に向けた企画・プロモーションを実施する。

### **4) 会員募集と会員サービスの向上**

#### **(1) 会員募集の強化**

当協議会の経緯・事業内容を纏めた『KPECパンフレット』および今年度発行予定の『30周年記念誌（仮称）』を活用して、新規賛助会員募集を行い、財務面、運営面双方の経営体質強化を図る。

#### **(2) 会員サービスの向上**

会員管理体制の整備により、KPECが実施または支援する各種地域活性化事業への案内、及び行政や他団体からの講演会開催等の情報提供の徹底を図り、会員との協働による地域活性化事業の推進体制を構築する。

## **3. 会議等の実施**

定款等に基づき、所定の会議を開催する。

- 1) 定時理事会の開催** (5月、2月)
- 2) 評議員会の開催** (定時：6月、臨時：3月)
- 3) 執行役員会議の開催** (月1回)

別紙 1

北九州地域産業人材育成フォーラム

**2019年度事業計画書**

## I 概況

2018年度の国内経済は、戦後最長の長さで続く景気拡大を背景に回復基調が定着した。

完全失業率は2.4%(全国2018/10)まで下がり、有効求人倍率も1.63倍(2018/10)の高水準となった。しかし、人手不足の深刻化に加えて、台風や地震など自然災害も重なり個人消費や輸出、設備投資などは悪化した。2019年の経済見通しについては、消費税増税の逆風を踏まえても、実質1.3%のプラス成長と言う強気の政府見通しが出ている。

一億総活躍社会づくりのために「人づくり革命」と「生産性革命」の2本を柱とした経済政策パッケージが策定され、地方大学改革と地方創生戦略の推進がさらに拡大している。

また、九州地域経済動向も、10か月連続緩やかに改善(2018/12)しており、輸出は増加傾向を維持し、個人消費は持ち直している。企業収益が改善するなかで、有効求人倍率も1.42(2018/10九州・沖縄全体、北九州のみ1.52倍)と改善してきた一方で、雇用環境に関しては「地方都市」「中小企業」において相対的に厳しい状況が現出しており、この改善が喫緊の課題となっている。

こうした環境を背景に、「産業人材育成フォーラム」事業の政策的評価が高まっており、国の「地方大学・地方産業創生事業」等と連動した事業の企画、開発と拡充が求められている。

「産学連携・地域協働」による産業人材育成の地域システム創りを目指し、多面的な事業化をしてきた本事業も、新しい環境変化に対応した事業の在り方の再確認と見直しも必要になってきている。

また、フォーラム事業の中核機能である連携大学等の環境づくりが、新たな課題となっており、大学改革とも連動した連携システム創りが求められている。

こうした環境を踏まえ、2019年度の産業人材育成フォーラム事業は以下の方針で編成する。

### 1) 高度人材育成プログラム

「地域連携型インターンシップ事業」は、トリガー機能である「研修型(短期)インターンシップ」の拡充に加え、高度な実践教育としての「実践型(長期)インターンシップ」の事業環境の開発を進める。さらに、「留学生」「産医大生」等に対応したインターンシップの環境づくりを行う。また、キャリアアップ型インターンシッププログラムの実施環境づくりを進めると共に、事業運営については連携校インターンシップコンソーシアムによる自立化を図る。

### 2) 社会人育成プログラム

フォーラム事業協働企業のリカレント教育に資する、連携校の社会人リカレント教育制度等の調査を行い、その活用促進のためのプロモーションを実施する。

また、国の進める「学びと社会の連携促進」「リカレント教育推進のための体制整備」等の方向性とフォーラム連携校の環境とを踏まえ、社会人育成プログラムの企画、研究を行う。

### 3) 青少年育成プログラム

理工系人材育成の重要性が指摘され、早期工学教育の環境づくりが求められている。地域産業界、フォーラム連携校及び北九州イノベーションギャラリー等の関連教育機関との協働によるものづくり教育の環境づくりを行う。

### 4) 地域クラスター形成プログラム

フォーラム事業の持続的発展のための運営環境づくりと、人づくり革命や地方創生戦略等の政策を踏まえ、産官学を挙げたフォーラム事業の地域システム化を推進する。

2019年度の北九州地域産業人材育成フォーラムの事業計画は、以下の通りである。

## II. 事業計画の内容

### 1. 高度人材育成プログラムの企画、運営

「地域連携型インターンシップ」の中核事業である「研修型(短期)インターンシップ」の拡充を図るとともに、産学双方のニーズを確認しながら、「実践型(長期)インターンシップ」等の目的別インターンシップの事業モデルを開発し、産学協働による運営環境の整備を行う。

#### 1) 地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施

##### (1) 研修型(短期)インターンシップ事業の拡充、実施 (継)

大学から職場・社会への円滑な移行の確保のための社会人基礎力の修得と、地元中堅・中小企業の認知向上による就職機会の創出等を目的に、連携校と協働で「研修型(短期)インターンシップ」事業を実施する。

##### ① 2019年度 研修型(短期)インターンシップの実施目標

	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度
	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録
学校(校)	5	5	5	5	5	5	5	5	5
企業(社)	95	67	88	53	88	39	83	32	100
学生(人)	135	118	103	90	74	65	74	65	100

##### ② 研修型(短期)インターンシップ事業の運営体制の確立 (継)

「地域連携型インターンシップ」の運営に関する課題を解決し、連携校におけるインターンシップ実施環境づくりを行うため、連携校のインターンシップ担当教員、及び関係部門スタッフによる「地域連携型インターンシップ連携校コンソーシアム」の運営体制の確立を図る。

##### ③ 北九州域外大学学生のインターンシップ受け入れの取り組み (新)

北九州地域企業の認知度の向上等による就職機会の創出を目的に、フォーラム連携企業による域外工学系大学生のインターンシップ受け入れの事業化に取り組む。

#### (2) 実践型(長期)インターンシップ事業の拡充と環境づくり (継)

将来の産業を担う人材の育成のため、より教育効果が高い「実践型(長期)インターンシップ」の事業スキームの開発と大学の実施環境の整備を行うとともに、実施ノウハウの開発、実証を行い、実施企業の拡大を図る。

##### ① 実践型(長期)インターンシップの開発と環境づくりの推進 (継)

連携校における実践型(長期)インターンシップ実施のための環境とその課題を確認し、中期的視点で、産学協働による事業の実施環境づくりを行う。本年度は、特に大学院生を対象にした「課題解決型」「研究協働型」「生産性向上型」等をテーマとした実践型(長期)インターンシップ事業の開発を行う。

##### ② 実践型(長期)インターンシップのモデル化と運営マニュアルの作成 (継)

文部科学省が新しい実践型教育(Co-op教育プログラム)として推進する、実践型(長期)イン

ターンシップの目的別・形態別分類に応じた運営マニュアルを作成し、連携校における事業化のための環境づくりを行う。

**③ 実践型(長期)インターンシップ事業プロジェクトの編成 (継)**

「実践型(長期)インターンシップ」の事業化に向けた環境整備を行うため、インターンシップ実施企業、大学関係者及びコーディネーターによる実践型(長期)インターンシップ研究プロジェクトを編成する。

**(3) 留学生対象の地域企業研究型(短期)インターンシップ事業の企画、開発 (継)**

連携校に在籍する留学生の地域理解の促進と地域企業の高度外国人材採用ニーズの拡大に対応するため、留学生を対象とした研修型(短期)インターンシップ事業の企画・開発を行う。

**(4) 産学協働による実践的教育 (Co-op 教育) システムの実施のための環境づくり (継)**

**① 北九州高専の実践型(長期)インターンシップコースの拡充・支援 (継)**

2018 年度にフォーラム事業のプラットフォームを活用して事業開発をした、北九州高専の長期インターンシップ (本科、専攻科) の拡充に向けて運営スキームの確立と実践的教育(Co-op 教育)システム構築のための環境づくりを支援する。

**〈北九州高専長期インターンシップ実施実績と実施計画(フォーラム協働企業)〉**

	2018 年度		2019 年度	
	専攻科	本科	専攻科	本科
参加企業	9	13	15	20
参加学生	10	18	20	26

**② 産業医大環境マネジメント学科のインターンシップコースの開発・支援 (新)**

2018 年度からフォーラム事業に参画している産業医科大学環境マネジメント学科の研修型(短期)インターンシップの運営スキームの構築と産学連携による実践的教育(Co-op 教育)システム構築のための環境づくりを支援する。

**2) 「地域連携型インターンシップ」運営のためのサポート事業等の拡充、整備**

連携校におけるインターンシップ実施率向上のためには、受け入れ企業の拡充と学生の参加拡大が必要である。「地域連携型インターンシップ」の運営の円滑化とステークホルダーによる自律的な運営システムの構築のための支援事業の企画、整備を推進する。

**(1) キャリアアップ型インターンシッププログラムの開発と環境づくりの推進 (新)**

連携校と協働で実施するフォーラムのインターンシップ運営体制を活用し、連携校における学生のキャリア形成と就職指導とを有機的に組み合わせ、年次に合わせて段階的にステップアップする『キャリアアップ型インターンシッププログラム』の事業スタイルの開発を進める。

**① フォーラム事業協働企業(ものづくりベストワン企業)研究・交流会の企画、開催 (新)**

インターンシップ参加数の増加、地元就職環境の改善、産学連携のインフラ創り等のためには、学生、大学教員・スタッフ等、関係者の地元企業の認知促進が重要である。また、「キャリアアップ型インターンシッププログラム」の環境づくりのためにも、学生(1年生～3年生)のインターン

シップ希望企業研究、就活学生の企業研究・就職相談、教員・スタッフの企業情報入手等に包括的に対応できる新しいビジネスモデルとして、地域企業研究と産学交流の場を創設する。本事業は、COCプラス事業とも連携して、インターンシップ連携校コンソーシアムにより企画、運営する。

- ・名 称 北九州ものづくりベストワン企業研究・交流会(仮称)
- ・日 時 ① 九工大会場 2019年6月 1日(土) 13:00~17:00  
(予定) ② ひびきの会場 2019年5月29日(水) 13:00~17:00
- ・会 場 ① 九工大会場 :九州工業大学 戸畑キャンパス 中村記念館  
(対象校)九州工業大学、西日本工業大学、北九州高専、北九州市立大学(北方)  
② ひびきの会場:北九州学術研究都市 会議場イベントホール  
(対象校)北九州市立大学(工学部)、九州工業大学、早稲田大学、産業医科大学  
※COCプラス関連大学は、2会場ともに参加可とする。

## (2) 連携校における地域連携型インターンシップの周知と参加促進事業の実施 (改)

連携校と地域企業が協働で実施するフォーラムの「地域連携型インターンシップ」事業の運営目的と活用意義を学生及び学内関係者に周知し、参加を促進するための各種事業の企画、開発、運営を行う。

### ① 連携校における各種事業プロモーションの実施環境の整備 (新)

連携校において実施してきた「インターンシップガイダンス」の実施方法の改善と広報チラシの配布等の学内プロモーションについての企画、環境づくりを行う。

### ② 「学生(教員)のための北九州企業発見ツアー」の実施 (継)

連携校の独自企画等との連携も検討し、学生、大学教員、及びスタッフの地元企業の認知向上を目的とした企業見学ツアーを継続実施する。なお、本事業は、北九州商工会議所の産業観光事業と連携して実施する。

### ③ 「北九州地域ものづくりベストワン企業情報誌」の制作と活用の推進 (改)

連携校におけるインターンシップ参加、地元就職促進のための地元企業情報の周知促進ツールとして、フォーラム協働企業(北九州地域ものづくりベストワン企業)を収録したオリジナル企業情報誌を作成し、連携校における各分野での利用を進める。

< 配布計画(予定) > 学部 : 2年~3年、大学院: 修士 < 印刷部数 > 6000部

## (3) 地域連携型インターンシップ運営のためのコーディネート機能の強化 (改)

フォーラム事業の拡充に向けては、地域企業を熟知し、多様な技術分野の知見を持つコーディネート機能の強化が必要である。フォーラム事業の運営を通じて、北九州テクノサポート(KTS)の機能強化支援を行うと共に、地域における学連携促進のためのコーディネーターの開拓、育成のための環境づくりを行う。

## (4) インターンシップ事業の円滑運営のための各種アンケートの実施 (継)

「地域連携型インターンシップ」の円滑な運営のために必要な各種情報の集約及びアンケート調査を実施すると共に、関係者の活用促進に向けた環境づくりを行う。

## 2. 社会人育成プログラム事業の企画、運営

国の『働き方改革』と『人づくり革命』で重要性が指摘された「リカレント教育(学び直し)」について、フォーラム連携校の制度と環境を活用して、地域の中堅・中小企業の中核専門技術者の学び直しの環境づくりを行う。

### 1) 中堅・中小企業の中核技術人材等の育成に向けた環境開発

フォーラム連携校のリカレント教育の制度や機能の研究、調査を行い、フォーラム協働企業の中核専門技術者の技術力強化とスキル向上に有効な教育プログラムの活用促進のための企画、事業を実施する。また、連携校における「リカレント教育の多様なプログラム開発」等におけるフォーラム事業プラットフォームの活用について、要請に応じた環境開発、研究を行う。

#### (1) 北九州ドクターチャレンジプログラムの拡大実施 (再)

地域企業の中核技術人材の専門技術力の向上と研究開発の促進を図るため、九工大及び北九大国際環境工学部大学院の長期履修制度の活用のための環境づくりを行う。

#### (2) 北九州テクニカルカレッジプログラムの活用促進 (継)

地域企業の中核技術者等のリカレント教育のための環境のために、フォーラムの社会人育成プログラム研究プロジェクトの要請により2017年度に制度化された九工大の「学術指導制度」の活用促進を進め、協働企業と九工大との産学連携環境づくりを進める。

### 2) 中堅・中小企業の経営・管理者育成に向けた環境開発

北九大大学院マネジメント研究科(K2BS)と連携して、地域企業の経営・管理人材のMBA取得促進と地域中堅・中小企業の経営力強化のための事業の企画、開発を行う。

#### (1) 「MBA サテライトフォーラム」の企画・実施 (継)

北九大大学院マネジメント研究科(K2BS)の地域貢献事業として、中堅・中小企業の経営・管理人材の経営力強化のための公開講座を企画、開催し、合わせて地域企業のMBA修得促進のための環境づくりを行う。

〈講座形式〉K2BS教員による経営学講座(座学方式)

〈講義内容〉中小企業経営における採用力強化セミナー

#### (2) 経営管理者のための「実践経営学講座車座塾」の企画・実施 (継)

北九大大学院マネジメント研究科(K2BS)の教員による地域企業の経営分析(論文・レポート)を教材として、中小企業経営・管理者を対象にした経営研究講座を行い、ケースブックの出版およびシンポジウムを開催(予定)する。

〈テーマ〉「新事業創造」「事業承継」「人材マネジメント」「経営理念」等。

〈内容〉地域企業経営者等15名程度(ディスカッション方式)で実施。

### 3) MBAホルダーによる白熱講座の開発、実施

北九大K2BSマネジメント研究会と連携して、地元企業経営者(経営学修士)とK2BS教員による経営学講義カリキュラムを編成し、連携校等における実践経営学講座開設の環境づくりを進める。

### **(1) 九工大大学院における MBA 活用経営学コースの設置準備 (継)**

2020 年度の工学研究院における「技術系のための MBA 流実践経営講座」のコース開設に向けて準備を進めると共に、「MBA 活用経営学コース」の連携校等における活用環境の開拓を行う。

## **3. 青少年育成プログラム事業の企画、運営**

文部科学省の理工系人材育成戦略や 2016 年度に実施した「先進地におけるものづくり教育の実施状況調査」を踏まえて、産学官連携による早期工学教育推進の環境づくりを実施する。

### **1) 北九州地域科学・工学教育情報マップ“かがたま”の運営、管理 (継)**

2018 年度に開設した理工系イベント紹介ウェブサイト「北九州かがくの玉手箱(愛称:かがたま)」の小中学校等教育機関をはじめ、地域や市民の活用促進のための環境づくりを行う。事業運営は、事業企画機関による「“かがたま”運営協議会」で行う。

〈連携教育機関・施設〉

九州工業大学・北九州市立大学・西日本工業大学・北九州工業高等専門学校・北九州市立児童文化科学館・北九州市立いのちの旅博物館・北九州市環境ミュージアム・北九州イノベーションギャラリー・TOTOミュージアム・安川電機みらい館

### **2) ものづくり教育等のモデル事業の企画、開発及び試行の実施 (継)**

北九州イノベーションギャラリーと連携してものづくり教育事業を企画、開発し、ものづくり教育としてのモデル化を進める。また、青少年育成プログラム研究プロジェクトの構成機関等における、理工系人材育成に係る企画、事業の開発、実施に向けた環境づくりを行う。

### **3) フォーラム協働企業によるものづくり教育の環境づくりの推進**

フォーラムの協働企業と連携したものづくり教育のための環境づくりを推進する。

#### **(1) 「北九州の企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくり (継)**

「北九州の企業人による小学校応援団」事業の講師派遣事業における「ものづくり」をテーマとした出前授業について、フォーラム協働企業を対象に講師企業の募集を行い、青少年育成プログラムが目指す早期工学教育の環境づくりを多面的に実施する。

#### **(2) 中学生を対象にしたものづくり教育事業の企画、開発の実施 (継)**

中学生の職場体験学習における「ものづくり」をテーマとした事業環境づくりのために、体験学習の受け入れについて、フォーラム協働企業の意向調査を実施する。

### **4) 産学連携によるものづくり教育の進め方についての検討の実施 (継)**

青少年育成プログラム研究プロジェクトの研究テーマを「北九州市の産業環境を活用した産学連携によるものづくり教育のあり方の研究」として、その進め方を検討すると共に、産業人材育成フォーラムの事業環境を活用して必要な環境調査等を実施する。

## **4. 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備**

フォーラム事業の拡充と持続的発展のための地域システム化を図るため、協働企業の会員化による事業の運営基盤の強化、事業運営の ICT 化を進めると共に、地域におけるプロモーションを推進する。

## 1) フォーラム協働企業の有志会員化の推進 (継)

フォーラム協働企業(事業実施企業 174 社)をベースにして、フォーラム事業運営の基盤企業となる有志会員企業の募集、登録を促進する。また、当初計画で予定していた有志企業による「企業部会」の編成については、今後に向けて、事業環境を踏まえながら検討を行う。

(有志会員企業追加募集目標) 20 社/合計 60 社 (2018 年度実績: 40 社、最終目標は 200 社)

## 2) フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施 (継)

産学連携・地域協働型の産業人材育成を目指す産業人材育成フォーラムの目的と意義を明確にし、連携校及び地域企業に対して事業を周知するためのプロモーションを実施する。

### (1) 産業人材育成セミナー・産学交流会の開催 (継)

地域企業の地域連携型インターンシップの運営環境の拡充と中小企業の人材育成の研究のため企業向け専門セミナーを企画、開催する。また、フォーラム事業を協働する企業経営・管理者と連携校の教員等関係者との交流促進のため「顔の見える産学交流会」を継続、開催する。

### (2) 産業人材育成フォーラムのブランディング及び広報プロモーションの実施 (継)

フォーラム事業の事業目的と趣旨、事業の体系等を総括し、長期的の視点をもって、事業の広報、プロモーションの実施とブランディングのための環境整備を行う。

### (3) 「北九州地域産業人材育成フォーラム」専用ホームページの拡充 (継)

連携校及び協働企業等の関連情報及び地域連携型インターンシップの登録情報を集約した専用ホームページを拡充し、協働企業や関連機能とのリンクによるソリューション化を進め、産業人材育成に関する専門情報機能としての拡充を図る。

## 3) 各種関連調査及び統計の実施

フォーラム事業の円滑な運営のために必要な関係情報の集約と事業の実施結果の評価分析等に活用するための各種調査及び統計を実施する。

### (1) インターンシップ関係調査・統計の実施 (継)

連携校におけるインターンシップの実施環境の整備とフォーラム事業の円滑な運営に資するため、フォーラムの「地域連携型インターンシップ」事業の運営環境を活用して、各種の調査、統計を実施する。

- ・ 地域連携型インターンシップ実施前学生の意向調査(全大学:関係学部全学生)
- ・ 地域連携型インターンシップ実施後学生の意向調査(全大学: I S 実施学生)
- ・ 地域連携型インターンシップ実施企業の事業実施後状況調査( I S 実施全企業)
- ・ 連携大学・高専におけるインターンシップ実施状況調査(全大学、全学部)
- ・ 地域企業におけるインターンシップ実施状況調査(実施企業選抜)
- ・ 学生のための企業発見ツアー参加アンケート(バスツアー参加学生)

### (2) 就職率関係の調査・統計実施 (継)

連携校における学生の就職動向及び地元雇用促進に対するフォーラム事業の貢献度等を確認する

ため、フォーラムの事業運営環境を活用して地元就職動向を調査し、実効性あるフォーラム事業の運営と、連携校及び北九州市の地域創生戦略推進のための統計データを作成する。

- ・ 連携大学・高専における地元就職状況調査（全大学・全学部全学科別）
- ・ 地域連携型インターンシップ参加学生の地元就職状況調査（全大学・全学部）

以上

### 2019年度 産業人材育成フォーラム 予算

(単位：円)

	項目	2019年度予算	2018年度予算	内 訳	増 減
収 入	1)負担金	11,000,000	7,200,000		3,800,000
	①北九州市	10,000,000	6,200,000		3,800,000
	②北九州活性化協議会	1,000,000	1,000,000		0
	2)会費	3,400,000	2,800,000		600,000
	①企業会員	1,800,000	1,200,000	企業負担金@30,000×60社	600,000
	②大学・高専	1,300,000	1,300,000	大学等会費(@300,000×4校,@100,000×1校)	0
	③交流会	300,000	300,000	企業研究会、産業人材育成セミナー 会費	0
	3)雑収入	1,770,000	0		1,770,000
	①出展料等	1,750,000	0	企業研究・交流会出展料@35,000×50社	1,750,000
	②企業見学ハスツア-補助	20,000	0	北九州商工会議所企業見学ハスツア-補助金	20,000
4)前年度繰越金	500,000	400,000		100,000	
	【収入合計】	16,670,000	10,400,000		6,270,000

	項目	2019年度予算	2018年度予算	内 訳	増 減
支 出	1)人件費	2,000,000	390,000		1,610,000
	①事業担当人件費	1,500,000	0	事業開発・運営担当	1,500,000
	②臨時的雇用人件費	500,000	390,000	アルバイト(データ整理・データ入力等)	110,000
	2)謝金	200,000	200,000		0
	①専門家謝金	200,000	200,000	産業人材育成セミナー、インターンシップ、MBA等講師	0
	3)旅費	380,000	240,000		140,000
	①旅費等	200,000	140,000		60,000
	②専門家招聘旅費	180,000	100,000	産業人材育成セミナー講師、インターンシップ、MBA 講師	80,000
	4)委託料	10,720,000	6,780,000		3,940,000
	①KTS業務委託	2,960,000	2,960,000	KTS企業開拓・実践型ISP開拓コネクト業務委託	0
	②KPEC業務委託	4,670,000	3,670,000	KPEC事業担当事務職員及び管理人員費一部負担	1,000,000
	③その他業務委託	3,090,000	150,000	HP制作・企業研究交流会設営業務委託	2,940,000
	5)その他経費	3,370,000	2,790,000		580,000
	①会場借上げ料	550,000	550,000	ベストフン企業研究・交流会、人材育成セミナー・会議等	0
	②印刷費	1,100,000	600,000	企業情報誌・ポスター・パンフレット・チラシ及び配布資料	500,000
	③通信運搬費	200,000	170,000	電話料・サーバー利用料、各種調査票、リフレット郵送料	30,000
	④事務消耗品費	250,000	220,000	事務用消耗品費 等	30,000
	⑤会議費	120,000	120,000	会議時飲み物代 等	0
	⑥交流会費	300,000	300,000	事業関係交流会経費	0
	⑦使用料及び賃借料	800,000	800,000	見学バス代、各種機器使用料、事務局関係諸費他	0
⑧雑費	50,000	30,000	振込手数料、その他雑費	20,000	
6)予備費	0	0		0	
	【支出合計】	16,670,000	10,400,000		6,270,000

北九州の企業人による小学校応援団

**2019年度事業計画書**

## I 支援事業の推進

企業等の協力を得て、親学推進プロジェクト、講師派遣プロジェクト及び社会体験プロジェクトとして児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を継続実施する。その他、本事業の継続的な発展と円滑化を図るために、市内教育関係者と経済界の連携・協力や交流を促進するための環境プロジェクトを実施する。

### 1. 親学推進プロジェクト

PTAへの父親参加の促進、企業従業員を対象にした親学推進について、普及に向けた具体策を図ると共に、PTA活動支援についても継続実施する。

#### 1) PTAへの親（社員）のPTA総会など各種事業への参加促進

校長会・PTA協議会・小学校応援団の連盟で小学校応援団参加協力企業に対して、PTA総会や各種事業の案内を配布し、参加促進を図る。

#### 2) 参加協力企業における親学推進

参加協力企業の従業員を対象に、小学校の現況や学校との関わり方等の理解促進を目的とした親学推進事業（出前説明会）を実施する。

### 2. 講師派遣プロジェクト

児童を対象とする出前授業、教諭や管理職の研修会への講師派遣等についての環境づくりと支援を行う。

#### 1) 出前授業・研修の継続実施

企業等の協力を得て、児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を継続実施する。

#### 2) 出前授業・研修の業務円滑化の推進

##### (1) ウェブシステムの改良について

現在、出前授業・研修について、申込みから実施及び報告までの情報共有を小学校とウェブシステム上で行っているが、小学校側のデータ入力滞り、講師と最終確認報告や事業報告に対し約50%の申込みについて、入力依頼をしている。ウェブシステム上にリマインダー用の機能を付加し、業務の円滑化を図る。

##### (2) ガイドブックの制作と配布

出前授業のテーマ一覧や授業内容及び申込み方法などわかりやすく紹介する「ガイドブック」の制作と配布を継続して行う。また、講師企業への理解度を上げることが、小学校にとって安心して出前授業利用できることに繋がるため、講師企業紹介を企業と相談しながら盛り込む。

### 3) テーマの拡充に対応した出前授業の環境整備

企業からの出前授業の登録に加え、小学校側の希望テーマに対応した出前授業の環境づくりを行い、ニーズに対応した出前授業の充実を図る。

#### (1) 科学クラブ等のニーズに対応した出前授業の実施

北九州市教育委員会の要請による科学クラブに対応するテーマや、体験型のテーマへの希望が急増し、課題となっている特定テーマへの申込み集中を解消するために、ものづくり企業や団体を中心に講師企業の募集を行う。

#### (2) 小学校のニーズに対応した出前事業の実施。

2018年度より試験的に実施している、小学校のニーズに対応したテーマへ対応する出前授業の実施について、協力企業等の環境を調査し、実施体制の構築を図る。

## 3. 社会体験プロジェクト

児童の社会体験学習の支援・協力や、教諭や学校管理職の研修の受け入れについて、小学校の要請に対応した環境調整と支援事業を行う。

## 4. 環境づくりプロジェクト

小学校応援団事業の円滑な運営環境を構築するため、市教委等教育関係者と経済界の連携・協力・交流の促進を図る。

### 1) 小学校長との意見交換会の開催

小学校応援団の支援活動をより実りあるものとして継続実施できるようにするためには、学校現場の意見を直に聞きながら活動を進めることが重要である。小学校長との意見交換会を昨年度に引き続き開催する。

## 5. 広報の充実化

小学校応援団事業は、北九州地域の企業が協働して、出前授業などを通じて、小学校支援を行う全国的にも珍しく取り組みである。また、文科省が掲げる学校を核とした地域の創生を目指す「次世代の学校・地域」創生プランの実現に向けた具体的な取り組みであり、地域協働の体制づくりが求められる。関係者のみならず、地域に周知する必要があるため、以下の項目について重点的に実施する。

### 1) 小学校関係者の認知向上と活用促進のための広報の実施

4月にコーディネーターが小学校を訪問し、教員に対して小学校応援団の主旨及び内容、利用方法などの説明を実施し、事業の周知を図る。

### 2) 地域企業等の認知向上と協力環境の構築のための広報の実施

パンフレットの配布やホームページによる事業紹介を積極的に実施し、企業への周知を図る。

### **3) 保護者や地域コミュニティ等の理解と協力環境の醸成のための広報の実施**

小学校応援団のホームページをスマートフォン対応に変更し、地域コミュニティ等における小学校応援団事業の周知を図る。また、適宜、応援団の活動状況を報道機関に情報提供する。

## **II 支援体制の充実**

### **1. コーディネーターによる支援事業のサポート体制の充実**

小学校応援団事業の実施については小学校をサポートし、事務局と学校を繋ぐコーディネーターは必須機能である。支援事業の周知と進捗状況の管理等の活動強化のためにコーディネーターの役割と機能を明確にし、支援事業のサポートの充実を図る。

### **2. 参加協力企業等の拡大**

全校（129校）体制に対応した出前授業の実施環境の構築のため、市内の関係機関等の協力を頂きながら参加協力企業の拡充を行う。

## **III 三者会議の開催**

北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成25年4月1日締結）に基づき、当応援団、北九州市教育委員会及び(公財)北九州活性化協議会との三者調整会議を開催し、支援事業の現状について共通認識を図るとともに、方針に関する調整を行う等、事業の円滑な推進を図る。

## 北九州の企業人による小学校応援団 2019年度予算

(2019年4月1日～2020年3月31日)

収入

単位：千円

項目	予算額	説明	参考 (2018年度予算額)
負担金	7,500	<負担金拠出額> 北九州市 5,500 北九州活性化協議会 2,000	<負担金拠出額> 北九州市 5,500 北九州活性化協議会 2,000
計	7,500		7,500

支出

項目	予算額	説明	参考 (2018年度予算額)
支援事業費	772	講師謝金等	500
コーディネーター業務費	829	費用弁償等	1,350
広報・プロモーション推進費	899	パンフレット作成等広報費、ホームページ・システムの充実等	650
人件費	4,100	事務局人件費	4,100
事務局経費	900	通信運搬費、交通費、消耗品費、事務室等使用経費等	900
計	7,500		7,500

北九州イノベーションギャラリー  
指定管理者事業  
2019年度事業計画書

## 1 基本理念

北九州は、世界遺産である官営八幡製鐵所が生まれた街で日本における近代産業の黎明期から拠点的な工業都市として発展し、やがて北九州工業地帯を形成、時代の変化に呼応した変遷を遂げ、世界に冠たるものづくり大国となった今日の日本の産業構造構築の上で、常に極めて重要な役割を担ってきた。

北九州イノベーションギャラリー（産業技術保存継承センター）は、当地固有の歴史的風土がそこに根ざした多くの企業のたゆまない努力から生み出された技術革新～「イノベーション」の積み重ねの中で育まれてきたことを見つめ、そこに蓄積してきた「人材」「技術」「産業遺産」の3つの資産を活用しながら、明日の北九州、ひいては日本を支える新たなイノベーションへとつながる（1）人材活用・育成、（2）産業技術の保存継承（技術の知と心の継承）及び世界遺産を含む産業遺産の情報発信、（3）技術革新（イノベーション）の機会創出を図っていく。

## 2 基本方針

### ◆地域において培われた産業技術とその心を継承する。

日本が先進工業国へと成長する過程で、北九州は数多くの技術革新を経験し、技術・技能やこれらを支える経営・管理ノウハウ等膨大な知見を蓄積してきた。これらの財産を可能な限り調査し、保存・継承に努める。

### ◆イノベーションを促進する環境を整え、イノベーターを育成する。

優秀な技術者、熟練技能者、デザイナーおよび大学の研究者等と連携し、技術動向やデザイン等の情報を提供するとともに、産学官の技術交流の場を提供することで、産業技術に対して幅広い視野を有し、知識融合等によるイノベーションを推進しうる人材の養成に取り組む。また、社会人再教育として、実践に必要な幅広い基礎知識の強化に取り組む。

### ◆次世代イノベーターを育成する。

産業技術や基礎科学の重要性について、青少年の理解を高め、技術やデザインへの探究心を育む。

### ◆技術者OBの経験を活かす。

北九州市には、技術革新に関わった技術者が多く在住している。彼らの経験を活用し、技術の知と心の継承を行う。

### ◆多様なネットワークを構築する。

地域の企業および大学等高等教育機関のみならず、内外の博物館や研究機関と連携することで、高度な専門性を確保しつつ、サービスの内容や質の向上を図る。

### ◆固有の価値・魅力を発信する。

「イノベーションをテーマにした国内唯一の施設」としての当施設の独自性、魅力を高め、それを内外に発信していく。

### 1 方針

施設の管理運営にあたっては、次の方針に沿って効率化や事業内容の充実を図る。

#### (1) 業務分担と責任体制の明確化及び適切な人材配置

全体を統括する館長のもと事務局長と各部門責任者である室長及び部長を配置するとともに、担当業務と責任体制を明確にし、的確に業務を実施していく。また、必要な専門知識や経験等を持った人材を適所に配置し、企画力・運営力の強化を図り、効率的な施設運営や円滑な事業遂行に努める。

#### (2) 地域の大学や企業、類似施設との連携による企画力の向上

地域の大学や企業及び国立科学博物館等の類似施設との連携を図るとともに、地域の専門家や優れた人材を積極的に活用し、教育普及、調査研究、展示事業等の企画面の充実と専門性の向上を図る。

また、2017年度より始めた教育界、産業界等で幅広い経験のある有識者7名によるKIGS懇話会を継続し、館長の求めに応じて多角的な視点から助言を頂き、より一層魅力ある事業展開を図る。

#### (3) スタッフへの各種研修の実施

来館者に心地よい雰囲気と安心・安全な環境を提供するため、必要な事前研修を行い、運営業務全般に必要な知識とスキルを教育し、オールラウンドなスタッフを育成する。

また、定期的な研修や合同ミーティング等を通して利用者の立場に立ったサービスの提供が出来るように個人および組織の質の向上に努める。

### 2 運営組織図

館長 (鹿毛 浩之) [全体統括]	M : マネージャーの略
・事務局長 (田代 俊悟) [館長補佐・管理業務の総括(施設維持を含む)]	
・総務・経理M (松延 礼佳) [総務・経理業務及び展示業務の補佐]	
・調査研究室長 (松尾 正彦) [調査研究、映像制作、図書管理の総括]	
・調査研究M (久多良木 献) [調査研究業務]	
・ライブラリーM (大脇 希[派遣職員]) [図書管理業務]	
・企画運営室長 (田端 尚和) [事業全般の企画・運営・広報の総括、情報システムの総括]	
・広報・集客M (森永 昭宏) [広報、集客業務全般の立案・推進・管理等]	
・運営M (梶原 美由紀) [運営業務、アテンダント連携業務、団体・貸室の管理等]	
・企画M (片峰 陽子) [展示事業の立案・実施、広報・WEB管理]	
・アテンダント (委託) [総合案内、券売、接客等]	
・教育普及推進室長 (園田 澄利) [教育普及事業の企画・開発、関係団体との調整等]	
・教育普及推進室次長兼教育普及推進部長 (藤武 孝) [教育普及事業の企画・開発]	
・教育普及M (大森 悠佳) [デジタル工房企画運営、プログラム開発・推進等]	
・教育普及M (高田 麻菜) [デジタル工房企画運営、工房業務補助、アンケート集計業務等]	
・工房長(村上 英俊) [工房業務総括・管理指導、施設管理等]	

#### ◆資格等保有者

- ・甲種防火管理者：田端 尚和
- ・一級建築士：藤武 孝
- ・ハングル語能力検定4級：森永 昭宏

- ・ものづくりマイスター(厚生労働省)、技能五輪全日本大会「機械組立」優勝者、  
職業訓練法指導員免許(機械科)、：村上 英俊
- ・学芸員:松延 礼佳
- ・司書:大脇 希

#### 1 実施計画(スケジュール)

##### (1) 2019年度取り組み目標

◆入館者数	68,000人
◆企画展観覧者数	20,000人
◆教育普及プログラム参加者数	13,500人
◆利用者アンケート満足度	施設全般 86%
	教育プログラム 97%
	企画展 87%

##### (2) スケジュール

別紙1の通り

##### (3) 産業技術の保存継承及び世界遺産を含む産業遺産の情報発信

世界遺産担当部署と連携し、多目的ホール、年表ギャラリー等において、世界遺産を含む産業遺産の展示等を行なう。また、ラウンジにおいてもスペースを有効に活用し、産業遺産に関連した写真展等を行なう。

#### 2 教育普及に関する事業

##### (1) 2019年度取り組み方針

次世代の北九州を支えるイノベーターの創出を目的に、小・中・高校生等を重点対象とした「科学・技術教育」や「ものづくり教育」プログラムを開発し、実施するとともに、企業技術者や研究者、大学生、工業高等学校生等の交流の場を創出し、高度技術人材育成環境の構築を推進する。企画・推進に当たっては「北九州地域産業人材育成フォーラム青少年育成プログラム事業」活動や各種教育・研究機関、企業等と連携して効果的な人材育成の事業企画を行っていく。

また、着実に北九州市民に親しまれる施設になりつつあり、さらに幅広い世代の市民に「学び」や「ものづくり」の楽しさを提供していくために、新たな講座やワークショップ等を企画し提供していく。

さらに、北九州市の要請に基づき、北九州マイスターや技の達人との連携と活用による「技能・技術の継承」を推進する「技能教育」を拡充していく。

これらを踏まえて、組織が一体となって中長期的な視点に立った教育普及事業の計画編成とそれを実行するための体制づくり及び体制強化を継続して推進する。

##### (2) 2019年度実施事業

上記取り組み方針に基づき、教育普及の対象者に適したテーマ、内容、開催時期等を十分検討し、下記事業を実施していく。企画した教育普及事業を広く市民に周知し活用を促すために、北九州地域の早期工学教育関連情報を集約した「北九州地域科学・工学教育情報マップ“かがたま”」を継続して活用し、広報やプロモーションを強化していく。

#### ①イノベーション啓発事業の企画・実施

青少年から社会人、そして一般市民等の各世代に対する各種事業を推進することで、次世代イノベーターの創出と育成に向けた活動を行う。

##### ア KIGSイノベーションフォーラムの企画、開催(年1回)

次世代のイノベーターの育成を目的に、産業界や現代社会における技術動向や関心が高いと考えられるテーマと講師を選定し、「イノベーションフォーラム」を企画、開催する。

##### イ 地域ものづくり未来フォーラムの企画、開催(年1回)

地域のものづくりの現状や課題等について、広く意見交換する集いを継続開催する。

##### ウ 企画展や特別展に連動した講演(年4回以上)や上映(適宜)

開催する企画展や特別展に併せ、関連知識を広くする、あるいは、理解を深めるテーマを選定し、それにふさわしい講師を招いた講演・対談等を開催する。あわせて、それらに関わる映像を選択・収集し公開する上映イベントも行う。

##### エ 技術革新セミナー(年2回以上)

科学・技術分野における最先端のイノベーションや歴史的評価が高いイノベーション等の中から学生、技術者そして一般市民が関心を持つような具体的な技術革新事例等を取り上げたセミナーを企画し開催する。

・第1回;世界文化遺産 明治日本の産業革命遺産の広域認定と官営八幡製鐵所(仮題)  
(5月25日開催予定)

・第2回;検討中

##### オ デザインセミナー(年2回以上)

デザインに関する実技中心の講座、ワークショップについて、世代別に企画し実施する。

#### ②企業人や市民、学生向けに実施する事業

##### ア ものづくりセミナー(年5回程度)

市内の高等学校・大学を中心とし、技術・技能、産業史、安全教育等個別ニーズに応じた講師派遣やアウトリーチを展開し、施設の存在価値や有効性を高める。

##### イ 調査研究成果の普及活動

前年度の調査研究成果を有効に報告すべく通常の報告会の開催にとどまらず、場合によっては、該当団体や企業等への出前普及を積極的に行うとともに、冊子の有効配布や館内掲示を推進する。

##### ウ KIGS市民セミナー(年4回程度)

これまで比較的好評であった分野(歴史・産業史、地元企業の研究開発)やくらしに関わる身近なテーマ等を中心に、誰もが興味を抱ける分かりやすい講座として実施する。

##### エ イノベーション見学ツアー(年4回程度)

他ツアーとの差別化を図るため、あまり取り上げられない地元の工場や施設、史跡等の解説付き見学を主体に、親子向けのテーマ・コース等も盛り込みながら提供していく。

オ 中学生を中心とする体験型イベント等

(ア) 企業見学ツアー…近隣メーカーや工場等と連携し、社会にふれる場を提供する。

(イ) 職場体験（インターンシップ）…当施設での就業体験を通じて、ものづくりを軸とした勤労観や職業観の醸成を図る。

カ その他（地域の周辺団体等と連携し、普及に取り組むもの）

(ア) K I G S 倶楽部・研究倶楽部（定期開催）

帆船模型や低炭素社会普及の2グループとの継続的コラボレーションを行う。

(イ) 共催セミナー、イベント等（適宜）

市民カレッジや技術士会をはじめとする各種団体やイベントとの共催について、行政や団体等と協力し、相乗効果を共有できる連携事業を積極的に実施していく。

#### ③科学・工学にチャレンジする心を育む実践的な教室、ワークショップの企画・実施

青少年が科学や工学に興味や関心を持つきっかけになるような各種事業を企画・推進し、論理的思考やものづくりマインドの醸成を図る。

ア 「ものづくり教室」の充実と拡大

(ア) デジタルものづくり教室の企画・実施拡大

デジタル工房機能を活用し、トレンドに呼応したワークショッププログラムを開発していく。また、新たな顧客層の発掘にも取り組んでいく。推進にあたっては、近隣のFablabや教材企業等との情報共有や協業を図り、継続的な機能拡大を推進していく。

(イ) 大学、企業、教育団体と連携したワークショッププログラムの企画開発、推進  
九州工業大学を中心として北九州市内の工学系大学生が企画し、実施するワークショップの継続的実施と連携の充実・拡大を図る。また、地域のものづくり企業、教育団体の強み、コンテンツを活かしたワークショップを継続して実施することで発想豊かな活動を推進する。

(ウ) 企画展と連動した「ものづくりミニ体験」の充実、拡充

利用者が多く、満足度が高い「ミニ体験」を昨年度と同様に継続し、企画展期間外での開催もプログラムアレンジを行いながら検討していく。

イ STEM、プログラミング教育のための教室やワークショップの開発・推進

教育行政サイドが推進するSTEM(Science,Technology,Engineering,Mathematics)教育やプログラミング教育の重要性が家庭に浸透しつつあり教育ニーズに転換してきている。このような状況に鑑み、今年度も小学生を対象とした理科教育やプログラミングに関わる教室、ワークショップを教育専門団体と連携しながらコンテンツを開発し、推進していく。

ウ 「東田たたらプロジェクト」の継続実施

（鉄の日の本操業体験、春休み前の製品化工作）

関連企業や工学系大学等とも連携し、古代たたら製鉄の体験事業を継続実施する。内容を見直すことでさらなる充実を図り、体験型教育イベントとしての成熟度を高める。

エ 「東田サマースクール」の継続実施(夏期休暇期間中に3クール 3館連携事業)

夏季休暇を利用し、環境ミュージアムやいのちのたび博物館と連携した4日間連続の体験プログラムを3回実施する。ものづくりのやりがいや楽しさを小学生に体感しても

らう。

オ 「世界一行きたい科学広場 in 北九州」の継続実施（夏期休暇期間中の土日）

3 館や周辺施設を舞台とし、小学生親子を主対象とする実験や実演、工作等を地域の学校や団体等と連携し2日間実施し、夏休みの宿題対策や思い出作りに寄与する。

カ 団体向け講習への対応

来館者や利用者の増加を図るため、修学旅行や企業研修等の誘致活動とあわせて、より魅力を感じるものづくり体験プログラム(ものづくりミニ体験など)を企画し、実施する。また、各地からの世界遺産関連ツアー等の需要にも対応していく。

(ア) 企業・一般団体向けプログラム（適宜）

年表ギャラリー、企画展、産業映像上映、工房等の施設を活用し、企業研修をはじめとした企業・団体への教育プログラムを実施する。

(イ) 学校団体向け体験学習プログラム（適宜）

年表ギャラリー、企画展、産業映像上映、工房等の施設を活用した学習と、ものづくり体験、東田第一高炉見学、隣接の博物館見学等も組み合わせた学校向けプログラムを実施する。

### ④北九州マイスター、北九州技の達人による技能継承事業の企画・実施

ア 実践的技能研修のプログラム開発と企画運営

(ア) 北九州マイスターの積極的活用による技能レベル向上を目的に工房等で工業高等学校生向けの技能向上研修を積極的に実施するとともに、各学校への北九州マイスター派遣による技能伝承活動等の事業も拡大していく。

(イ) 北九州技の達人と連携するイベントや展示等も積極的に実施していく。

## 3 調査研究に関する事業

### (1) 2019年度の取り組み方針

当施設の調査研究事業は、北九州市の産業技術の保存継承や今後の更なるイノベーションの実現、またそのための人材育成に資することを目的に計画し、実施している。第3期は、第2期までの実施状況と北九州地域の現状を踏まえ、①北九州市ならではの産業技術やデザインの歴史に関する調査研究、②国内外の様々なイノベーションに関する調査研究を計画し実施している。

2019年度は、北九州市及び国内で発展してきた下記4つの技術テーマの調査研究に取り組む。調査研究の成果は北九州市をはじめ国内の企業、学校、一般市民等に公開し、それぞれの事業や教育、自己研鑽等への活用を促していく。調査研究に当たっては、企業や大学、技術士会等の有識者と協業するとともに、北九州市や国立科学博物館と連携していく。

### (2) 調査研究分野

#### ①北九州市ならではの産業技術やデザインの歴史に関する調査研究

北九州市は我が国の近代産業発祥の地であり、基礎素材産業を中心とした豊富な産業遺産歴史的資料や人材、技術が集積されており、今後の産業技術発展に資する価値は高い。平成27年7月には官営八幡製鐵所関連の4施設が世界文化遺産に登録された。これら北九州市に存在する産業技術や産業遺産と優れた人材の資質や業績を後世に残し、伝えていくことが重要であり、北九州市内の企業や研究機関等の協力を仰ぎながら調査研究に取り組む。

#### ②国内外の様々なイノベーションに関する調査研究

北九州市の今後の更なる発展には、現存する産業技術に加えて、新たな産業技術を導入していくことが望まれる。そのためには、国内外の産業技術イノベーションを広く俯瞰し、今後の北九州市の新しい産業技術の発展に寄与する基盤技術や先端技術領域のイノベーションの調査と選択が重要である。これらの点に鑑みて有識者の意見を仰ぎながらテーマを厳選しこの分野の調査研究に取り組む。

#### (3) 研究体制および研究期間

研究テーマによって、当施設の調査研究員が実施する他、内外の研究機関や大学、産業系博物館等及び企業と連携し、調査研究を進める。研究期間は原則単年度とするが、テーマによっては複数年度の取り組みを行う。なお、報告書は定められた形式で作成し、提出する他、可能な限りデジタル情報化し、インターネット等で公開する。また、調査研究成果に関する報告会をテーマと関連する地元企業・高校・大学等で必要に応じて開催する。

#### (4) 2019年度実施事業

##### ①北九州市ならではの産業技術やデザインの歴史に関する調査研究

北九州市は、昭和38年からの吉田法晴市長時代の公害対策開始、昭和42年からの谷伍平市長時代の公害克服とひびき灘開発設立、昭和62年からの末吉興一市長時代の環境モデル事業の産業化（エコタウン）と環境ビジネス振興、平成19年からの北橋健治市長の環境国際協力と先進的環境事業の継続と、歴代市長によって継続・発展してきており、現在ではチーム北九州の環境ビジネスは、さまざまな実績を上げて国内外から高い評価を得ている。

その一方で、一般市民にとっては、「環境」への意識が高いものの環境ビジネスの全貌に関しては理解不足が否めないものと思われる。

そこで、2019年度は歴代市長が推進してきた「環境ビジネス」をテーマに、「北九州におけるリサイクル技術の歴史と発展」と「北九州における環境インフラの海外展開の歴史と発展」について調査研究をおこない、産官学に加えて一般市民の理解を促進する。

##### ア テーマ案：「北九州におけるリサイクル技術の歴史と発展」（自主研究）

「北九州におけるリサイクル技術の歴史と発展」については、回収という行政政策との絡みが強いこともあり、これまでは業界相互のコミュニケーションが殆どないようである。

そこで、日本磁力選鉱やアステック入江、光和精鉱、新菱、吉川工業等の関連企業の事情に精通したコーディネーターが重要となる。そこで各関連企業との関係の深い大学関係の方々と連携して各執筆者への協力要請を行う。

対象業種としては、金属系やペットボトルや食品廃材等を中心に設定し、セメント関連については削除する方向で調整中である。

##### イ テーマ案：「北九州における環境インフラの海外展開の歴史と発展」（自主研究）

「北九州における環境インフラの海外展開の歴史と発展」については、北九州市環境局と全ての作業で連携してきた公益財団法人 地球環境戦略研究機関に業務委託する。これまでの経験に加えて、地元の成功企業のヒアリングを新たに加えて「チーム北九州」の強みを解き明かす。

昨年度実施した「北九州における近現代建築物の地域資源価値の考察」（その1：都市発展過程における意義と役割の調査）に続いて、2019年度は「北九州における近現代建築物の資源価値の考察」（その2：建築物の地域資源としての意味や価値、活用についての調査分析）として進化させる。

ウ テーマ（案）：「北九州市における近現代建築物の価値・役割」（自主研究）

北九州市は我が国の近代産業発祥の地であり、産業技術だけではなく旧5市がそれぞれの異なる街づくりを行い発展した。北九州は本州や九州各地への交通の拠点であり、また、大陸への交易の拠点でもあった。大手企業の支社が置かれ、九州一の商都として文化・芸術面でもさまざまな情報を発信してきた。

そのため、産業遺産だけではなく、優れた近現代建築や土木遺産が数多く残されている。2019年度は、都市発展過程における意義や役割の調査に続いて、建築物の地域資源としての意味や価値、活用についての調査分析をおこなう。

#### ②国内外の様々なイノベーションに関する調査研究

共同調査に関しては、国立科学博物館産業技術史資料情報センターと連携し、進行中の5テーマの調査研究から北九州の産業界とのつながりのある「自動車用転がり軸受けの産業技術史」というテーマを選定した。

ア テーマ（案）：「自動車用転がり軸受けの産業技術史」（共同研究）

重化学工業中心から、北九州近郊にトヨタ、日産の最新鋭工場が進出し北九州のものづくりも自動車産業へ軸足を移しながらイノベーション分野を広げている。

そこで、「自動車用転がり軸受けの産業技術史」を採用して、国立科学博物館に調査委託する。

## 4 企画展示に関する事業

産業技術の保存継承（技術の知と心の継承）、技術革新（イノベーション）の機会の創出に資する各分野の技術を地域に披瀝する企画展を、年間3回以上企画し開催する。開催にあたっては、関連する講演会、ワークショップ、イベント等も併催し事業成果向上を目指す。

貸室としての世界文化遺産関連の常設展も継続し、他地域からのツアー企画等呼び込む。

### (1) 2019年度取り組み方針

企画展については、昨今より広く関心を誘うテーマを選択し、親しみやすく判りやすい切り口で、楽しみながら学べる内容で展開し、来館層拡大と観覧者数増大を果たすことができた。

本年度については、その路線を踏襲しながらも、技術の進化を支える知恵と工夫、技能の修練の大切さ等がさらに浮き彫りとなる展示構成を心掛け、これまで取り上げてこなかったテーマについても果敢に取り組んでいく。特に夏については、翌年度の東京オリンピックにちなみ、老若男女それぞれに関心の高い“スポーツ”について、当施設ならではの観点で展開し、秋については、「いのちのたび博物館」と連動するテーマを採択し、相乗効果を得る。

#### ①計画・立案

- ・話題性の高い幅広く楽しみ学べるテーマを設定し、判り易く興味深い構成とする。
- ・独自の切り口と統一感あるテイストで展開し、観覧意欲を誘発する仕立てを行う。
- ・最小の出資で最大の効果を得るよう、再委託先選定等含め早目に的確に進める。
- ・地域密着型展示を冬に配することで、周辺との連携強化と知名度の浸透を図る。

#### ②企画・運営

- ・地元や未来についてのゾーンを配置するとともに、体験・体感重視の展示とする。
- ・シーズン毎に適切なレイアウトや装飾を施し、ゾーニングにもメリハリをつける。
- ・場内ガイドの強化、クイズラリーや体験イベントの併催等、付加価値向上を図る。

#### (2) 2019年度の企画展

##### ①実施時期及びテーマ

区分	開催期間	分野	テーマ(仮称)	概要
春	2019年 4月20日～ 7月7日	先端技術	「そっくり技術展」	幅広く活用される様々な複製技術について、その目的や技法、精度等を深く掘り下げ、興味深く展開していく。
夏	2019年 7月20日～ 9月29日	スポーツ 科学	「スポーツ用品展」	道具やユニフォーム、記録測定等の目覚ましい進化を支える技術について、親子で楽しく学べる体感型展示とする。
秋	2019年 10月12日～ 12月下旬	生産技術	「印刷発見展2」	「伝える、残す、表現する」知恵と工夫の積み重ねにより進化する印刷技術について、幅広くビジュアル的に紹介する。
冬	2020年 1月～3月	作品展等	*未定	学校や地域団体の作品、成果を短期で区切り公開していくリレー展等を行う。 (『北九州技の達人展2』も候補の一つに入れる。)

##### ②観覧料

企画展の観覧料は、大人 300 円・小人 100 円を基本とし、満足度向上と観覧者数増につなげる。ただし、トップシーズンの夏期は見応えのある内容に見合う観覧料設定とする。

#### (3) 産業技術の保存継承及び世界遺産を含む産業遺産の情報発信

世界遺産担当部署と連携し、多目的ホールや年表ギャラリー等において、世界遺産を含む産業遺産の展示等を継続する。その際、必要に応じ展示内容の見直しを図る。

### 5 映像・図書等収集及び公開に関する業務

#### (1) 2019年度取り組み方針

当施設のテーマであるイノベーションや産業技術、デザインに関する映像・図書・資料等を収集し、アーカイブの充実を図るとともに、ライブラリーや情報システムを通じて広く公開し、学習や研究活動を情報面から支援していく。

#### (2) 2019年度実施事業

##### ①図書、雑誌、資料等の収集・公開

##### ア 図書・資料の収集と活用促進

当施設の目的と利用者のニーズを確認し、図書の購入及び資料の収集計画を編成し、図書及び情報資料の収集と体系的整理を行う。昨年度に続き、子ども向けの科学・技術図書を充実させ、保護者を含めた利用者層の拡大を図る。同時に企画展の開催と連携し関連資料の拡充と整備を図っていく。

また、産業史の資料の拡充の一貫として、主に北九州企業の社史を継続的に収集しライブラリーで公開し、企業経営や技術開発の体系的調査研究等への活用を促進する。

#### イ ライブラリーの運営

利用者アンケートや要望を反映させたスタッフの質的向上や書籍の充実、ホームページへの新着本情報（毎月）掲載等、サービス充実を図り、知名度や魅力度の向上やリピーターの拡大につなげる。

#### ②映像の制作・公開

##### ア 映像の制作

北九州の産業を代表する技術の保存・継承について、調査研究事業との関係も踏まえて映像化が必要と考える技術情報等の映像データの作成計画を策定し実施する。

2017年度と2018年度と2年連続で「北九州オンリーワン企業物語」を制作したが、2019年度は中小企業振興課が予算化したことからこのシリーズを一旦中断する。2019年度は、翌年の東京オリンピックによる外国人観光客の増加に対応して、近代産業発祥の地としての北九州市の優位性をアピールするために、2018年度に実施した「北九州市における近現代建築物の価値・役割」の調査研究を基に、「北九州五都市物語」として映像化する。

これまでと同様に、全編30分で門司、小倉、若松、八幡、戸畑の旧5都市を1都市＝6分に分割し、さらに日本語、英語、中国語、韓国語の4ヶ国語をユーチューブでも配信することでスマートフォンでの利便性を高め、現地に訪れながら視聴できるという新しい訴求方法を提案する。

##### イ 映像の公開

###### ・2019年度「北九州オンリーワン企業物語Ⅱ」の上映会開催

2部構成として、Ⅰ部を「制作披露試写会」、Ⅱ部を北九州オンリーワン企業でありⅠ部で紹介された桑原電工の桑原会長をゲストに招いたトークショーとする。

「北九州オンリーワン企業物語Ⅱ」は、オンリーワン企業へのインタビュアーとしてクロスFMで人気の鶴田弥生さんを起用しており、「制作披露試写会」でも司会者として、平成23年に発生した東日本大震災を振り返ったトークショーを行う。

###### ・過去に制作した映像の上映会開催

企画展や各種講演、イベントと連携した解説付きの上映会を開催する。団体客が利用時には、その訪問目的に応じたテーマの映像を組み込む。

###### ・映像データ貸出等の利用促進

ファイリングしている映像データの活用として、関係機関への情報提供による活用促進と共に、当施設の広報活動の中で地域への周知を図る。

###### ・ユーチューブによる配信

現在、ユーチューブで2017年度に制作した「北九州オンリーワン企業物語」をホームページトップから配信している。

2019年度は、「北九州オンリーワン企業物語」「北九州オンリーワン企業物語Ⅱ」の計8社を新たにそれぞれ4ヶ国語で編集し、計32本の映像をユーチューブで配信する。

#### ③データベース更新と総合的な「北九州ものづくり企業」情報ツール化

フォーラムや各種講座、ワークショップ等の教育普及活動や調査研究の成果を活動記録として整備すると共に、現在でもアクセスの多い「北九州ものづくり企業」に関するデータベースを更新し、最新の情報の提供に努める。

特に、「北九州ものづくり企業」に関しては、最重点課題として、追加企業の取材等を行い更新に着手する。あわせて、企業情報や社史、社報、調査研究報告書（調査対象）、産業映像（北九州オンリーワン含む）に加えて、リクルート情報を追加することで総合的な「北九州ものづくり企業」情報ツールとして、見せ方の工夫等を行い掲載企業にとっての有効性をアピールする。

また、第4期指定管理に向けて、ホームページのリニューアルを検討する。